



日本橋區砂糖商會
京橋區砂糖商組合

砂糖稅賦課ニ對スル意見



砂糖税賦課ニ對スル意見

謹ニ敬ニテ東京京橋區砂糖商組合及日本橋區
砂糖商同盟者等内閣總理大臣伯爵大隈重信殿閣下ニ
白ス

頃米道路ニ説ヲナスモノアリ曰ク這回政府ニ於
テ新ニ砂糖ノ上ニ一大重税ヲ賦課スル事ヲ内定
セリト呼々果シテ信ナルカ是レ國家ノ為ニ最
大恨事ト云ハサルヘケンヤ我等砂糖營業者
ハ之ニ向テ飽ニテ其弊ト害トヲ舉示レ訴ヘサ
ルヘカラス政府ニ於テ強々忍心シテ該税法ヲ遂
行センカ從來内地ノ製糖業ヲ撲滅スルハ勿論將
ニ勃興セントスル製糖業ヲシテ衰減挫折セン

且社會ノ砂糖消費力ヲ減退シテ政府豫定ノ
稅額ヲ得ル能ハサルハ燎々乎トシテ明カナリ然ラ
ハ即チ新ニ過重ナル稅ヲ砂糖ニ賦課スルカ如キハ
國家ノ為ニ一利ナク千百ノ弊害ヲ誘起スル大
苛法ナリト断定シテ誤リナカラシムカ其ノ理由ト
シテ試ニ左ニ其要點ヲ列記セン

第一砂糖稅ハ内地ノ製糖業ヲ撲滅セシム

ル最苛法ナル事

砂糖ハ人類必需ノ營養物ニシテ人々欠ク一カラ
サル日用品ナリ故ニ改米諸國ニ於テハ各々製糖
者ニ向テハ直接若シクハ間接ニ保護獎勵ヲ與
フル一歎トセス吾政府モ茲ニ見ル所アリテカ

曩年一二製糖會社ニ向テ保護ヲ與ヘタル事ア
リ然ルニ今ヤ現政府ハ他ニ適當ナル稅源アルニモ
拘ハラズ之ニ正反對ナル方針ヲ執ワテ強テ砂
糖ニ重稅ヲ課セントスルカ如キハ果シテ其旨趣
ノ那邊ニ基ク所ナルヤ我等ノ了解ニ苦シム所
ナリ抑モ我國製糖業者ハ頻年外國糖ノ輸入増
加ニ壓迫セラレ萎微振ハサルノ傾向アルニ非スヤ
是レ即チ彼ノ保護獎勵アル強力ノ輸入糖ヲ敵ト
スル結果ナリト云ハサル可ラス然リ而メ依然斯業
ニ從事スル所以ノモノハ一ハ輸入糖ノ跋扈ヲ防カ
ントスル愛國ノ熱情ト一ハ父祖傳來ノ遺業ヲ
一朝ニ轉スル能ハサルト製糖機械其他ノ資本

ヲ遺棄スルヲ惜ムノ情ニ外ナラス如此ノ現状ナレハ今日過大ノ賦課ヲ砂糖ノ上ニ蒙ラシムレハ取テ直ホサス當業者ニ向テ廢業ヲ強制スルニ等シク其不理不當ナルハ言ヲ待タズ之レ我等カ砂糖税ヲ以テ製糖業ヲ撲滅スル最苛法ナリト云フ所以ナリ

第二 砂糖税ハ消費力ヲ減退シテ豫定ノ税額ヲ得ル能ハサル事

砂糖税ハ一時ニ過重ノ税額ヲ賦課スルモノナレハ經濟上自然ノ趨勢ニヨリ消費力ヲ減退スルハ必然ナリ加之ナラス砂糖ニ比レテ三百倍ノ甘味ヲ有スル彼ノ甘精(サンカリール)ノ如キ衛生上ノ有害

物ハ益々勢カヲ得テ砂糖需用ノ範域ヲ侵犯スレハ政府ノ豫定スル製造高輸入高ニ大齟齬ヲ来シ随テ豫定ノ税額ヲ得ル能ハサルハ明ナリ

第三 砂糖税ハ税法ノ原理ニ背反スル事

凡ソ税法ノ原理トシテ日用品ニ課税スルカラサルハ明ナリ而シテ砂糖ノ如キハ衛生上必需ノ日用品ナレハ其原理ニ背反スルモノナリ

第四 砂糖税ハ國家衛生上大害ヲ及ス事

國家財政ノ必用トシテ税源ノ鞏固ナレモノヲ擇ビ國民ヨリ徵税スルキハ勿論ナレ共國民ノ健康ヲ犧牲ニ供レテメ尚ホ漫然之ヲ遂行セントスルカ如キハ其ノ不當ナルヲ論ヲ俟タス況ンヤ砂糖

税、如キ税源、不鞏固ナルモノニ於テオヤ昔ニ
述ル如ク今日砂糖ニ過重ナル税ヲ賦課セハ内地
ノ製糖ヲ全滅スルハ火ヲ見ルヨリモ尚ホ明カナ
リ而シテ従来当業者ノ経験ニ依ルニ日用品トシ
テ消費者ノ最モ好ニテ需用スル所ノモノハ即
チ内地製赤砂糖ナリ其因由如何ト云フニ内地製
品ハ糖分多量ニシテ混交物ナク衛生上無害ノ物
タルカ故ナリ然ルニ新税ノ為メニ内地ノ製糖全
滅スレハ自然赤砂糖使用ノ慣習ニヨリ外国製赤
砂糖ヲ使用スルニ至ルハ論ナシ然リ而シテ外国製
赤砂糖ハ元来純白糖ヲ製出スル原料ナル半製品
ナレハ泥沙ノ混入等アリテ衛生上有害ノ物ナル故

ニ社會需用者ノ健康ヲ害スルハ明白ナリサレハ今
新ニ重税ヲ砂糖ニ賦課シ内地ノ製糖ヲ全滅
セシムルハ國家衛生上大ニ顧ミサル可ラサル一
大要点ナリ況ンヤ又甘精、如キ衛生上ノ有害
物ヲ不知不識ノ間ニ使用スルニ至テハ其害計ル
可ラス豈寒心戰慄ノ至リナラスヤ是レ砂糖税ハ
我等ノ國家衛生上ニ大害ヲ及シ國民ノ健康ヲ
犠牲ニ供スル不可施的税法ナリト絶叫スル所以
ナリ

第五 砂糖税ハ小賣業者ヲ倒産セシム
ル憂ヒタル事
砂糖ハ新関税、結果トシテ三倍三介強ノ増税ト

ナリ而シテ又風説ノ如ク二割若クハ三割ノ課税
ヲ見ルニ至レハ從來ノ税ニ比シテ十倍以上ノ重
税トナリ孰ヒ消費ノ減少スルハ明カナリ消費
者減少シテ販路茲ニ縮少スレハ第一其害ヲ蒙
ルモノハ小賣業者ナリ元來小賣業者ハ
小額ノ資本ヲ以テ直接少量ヲ多數ノ消費者
ノ需用ニ應ジテ供給ヲ為スモノナレハ需用者減
少ノ為メ實ニ生計上最大ナル打撃ヲ受ケ云フハカ
ラサレ悲境ニ陥リ其極倒産ノ大不幸ヲ麾クニ
至ルレ是レ我等ノ忍シテ耐ユル能ハサル所ニ
シテ砂糖税ニハ徹頭徹尾絶対的及對ヲナス所
以ナリ

之ヲ要スルニ砂糖税ハ内地製糖業ヲ撲滅シ豫定
ノ税額ヲ得ル能ハス税法ノ原則ニ背及レ國家衛
生上ニ大害ヲ來シ當業者ヲ倒産セシムル等實
ニ不理不啻ノ税法ナリ加之其徵稅ノ方法如何ニ由
テハ密輸入ヲ獎勵シテ犯罪者ヲ多ク出シ徵收上煩
雜ヲ來シ多數ノ徵稅費ヲ要スル如キ其他之レカ
為メニ生スル弊害ヲ指摘スレハ枚擧ニ遑コサカラ
ントス是レ吾々カ砂糖税賦課ニ對シテ大ニシテ國
家ノ為メ小ニシテハ當業者ノ為メ憂慮シテ措ク
能ハサル所ナリ妄言多罪恐惶謹言

東京京橋區砂糖商組合惣代

齋田 岩太郎

明治三十五年十月廿一日



内閣総理大臣

伯爵大隈重信殿

東京日本橋區砂糖商同盟者總代

上原善兵衛



小川茂三郎



田中延二郎



田川柳助





内閣総理大臣

伯爵大隈重信殿

書留

閣下

東京 書留 897





明治三十一年十月廿一日

東京橋區砂糖
商會假事務所
京橋區東湊町二丁目廿番地

